指導計画案

時限	導入	展開	まとめと発展
指導上の重点目標	1 文語定型詩と口語自由詩を読み比べ、それぞれの特徴や詩的効果について、話し合わせる。		
学習活動	① 「単元の言語活動３」の序文を通読する。 ② ワークシートと振り返りシートを配布する。	① 文語定型詩である室生犀星「小景異情」（二八六～二八七ページ）を読み、和歌や短歌との違い、また口語自由詩との違いについて、話し合う。思判表・主態 ② 口語自由詩である宮沢賢治「永訣の朝」（二八九～二九二ページ）を読み、口語表現や表記上の工夫がどのような詩的効果を生んでいるか、話し合う。知技・主態	① 振り返りシートに記入させる。
指導上の留意点		① ・教科書掲載の古典詩歌の中から、「小景異情」と同様に故郷への思いを詠んだ作品を探し、どのように詠まれているか、確認させる。 ・「小景異情」を口語的に書き直し、朗読したときのリズムや内容上の印象、また読後感がどのように変わるか、話し合わせる。 ② ・「永訣の朝」に用いられている平仮名や片仮名、ローマ字などの表記をほかの表記に書き換えた場合、言葉の印象がどう変わるか、確認させる。 ・「永訣の朝」の特徴の一つに方言の使用があるが、詩歌や芸能において方言が用いられた例を探し、その表現効果について考えさせる。	